

教育目標「自ら未来を拓き 心豊かに たくましく生きる子どもの育成」



150周年

# 遷喬小だより

TEAM 遷喬・PRIDE 遷喬 ~子どもも 教職員も 地域も 伸びる学校~

## 縦割り班活動を通して

めざす児童像のひとつ「支え合う子」を育成するために、今年度特に力を入れている取組は、縦割り班活動です。2学期は、火曜日の昼休みを「縦割り班遊びの日」として、5・6年生が事前に企画した遊びを実施しています。高学年が低学年に合わせて遊んであげている姿や、学年関係なく輪になって腕を組んで遊んでいる姿を見ることがができます。遊びの中で、がまんしないといけないことや、ケンカも起きるかもしれませんが、そのときが人との付き合い方を学ぶ場だと考えています。

### 縦割り班遊びのよさ

- ・異なる年齢の子どもたちが一緒に遊ぶことで、他者とのコミュニケーションや協力の大切さを学ぶことができます。
- ・上級生がリーダーとなる場面が多く、リーダーシップのスキルが自然と養われます。
- ・年齢の違う子どもたちが一緒に活動することで、異年齢間の絆が深まり、学校全体の一体感が高まります。
- ・遊びの中で起こる様々な問題を協力して解決することで、問題解決能力が養われます。

### 縦割り班遊びの様子



# 校内陸上記録会

10月19日(土)に予定されていた真庭支部学童陸上記録会が雨天中止となったため、陸上練習の成果を確認する場として、5・6年生を対象に校内記録会を実施しました。

記録会に向けて練習をしていた子どもたちは、自己ベストが出せるように、記録会に出場予定でなかった子どもたちは、自分の記録を知る機会として各種目にチャレンジしました。

自己ベストをめざしてがんばる姿や記録に挑戦する友達を応援する姿を見ることのできた校内記録会になりました。



## 遷喬小150年の軌跡①

遷喬小学校は、陸上運動に力を入れていた歴史があります。大正から昭和初期にかけて、郡内や津山での陸上大会に出場し、旧遷喬小学校の講堂に並びきれなかったほどの優勝旗を持って帰りました。遷喬小学校のハチマキは紫でしたが、昭和4年頃から紫に白線の入ったハチマキになりました。そのハチマキをして選手が出ると、他校の選手から、「あれは遷喬だ。遷喬にはかなわない。」と恐れられていたそうです。本校を大正2年に卒業した榎原如一さんは、大正12年5月極東オリンピックにハードル日本代表選手として出場し第2位となりました。また、翌年には、明治神宮大会においてハイハードル日本新記録を出しました。

陸上運動の伝統は受け継がれ、平成19年の岡山県学童陸上競技大会では、男子60mハードルで優勝、男子4×100mリレーで2位、平成20年には、真庭支部学童陸上記録会で男子4×100mリレー新記録樹立、同リレーチームが県学童陸上競技大会で優勝しました。平成23年には、美作地区学童陸上記録会で女子4×100mリレー新記録を樹立、同リレーチームが県学童陸上競技大会で3位に入賞しました。



平成20年 岡山県学童陸上  
競技大会 1位(3レーン)